

事業報告書

令和5年4月 1日から

令和6年3月31日まで

1. 事業の概況

本年度は「令和4年度～令和8年度 地方創生・経営健全化計画（5ヵ年）」の2年目であり、DMV（デュアル・モード・ビークル）の通年での営業運行開始から2回目の決算を迎えることとなりました。

【乗車人員について】

これまでは「事前予約」を含めた当日乗車した人数、「定期券」や「企画切符」の購入者数を合算した数字を「乗車人員」として公表してきましたが、今後は透明性を確保する観点から、「実際に乗車した人数」を「乗車人員」として算出・公表する方向で見直しを行います。

なお、本年度は「乗務員が乗車を確認した人数」を「乗車人員」としております。

【阿佐東線のご利用状況】

乗車人員は31,348人（対前年比78.9% ※対R元年比156.3%）となり、旅客運輸収入は乗車人員の減少を受け、22,743千円（対前年比87.8% ※対R元年比355.7%）を計上しました。このうち企画切符収入については1,683千円（対前年比180.7% ※対R元年度比108.8%）、定期収入については77千円（対前年比49.4% ※対R元年度比38.4%）となりました。

【営業面】

DMV 運行開始2周年を契機としたプロモーション活動において、旅行会社向け商談会や旅行博等における誘客営業、主要都市部・沿線地域・交通事業者等主催のイベントへの参加、新聞・雑誌広告・SNSを活用したPRなど、積極的にDMVの情報発信を行い、認知度向上や利用促進に取り組みました。

8月30日には「奈半利特別運行」により、1往復限定ではありますが、甲浦駅～奈半利駅間を史上初めてシームレスに繋げるなど新たな取り組みを交え、話題喚起も行いました。

11月14日～12月12日には「台湾チャーター便」での訪日客約700名がDMVを予約乗車されました。沿線自治体と共におもてなし、次の来客へつなげる受入れや対応を行いました。その結果、3月に就航した同チャーター便においても訪日客約300名がDMVに予約乗車いただき、沿線の観光施設や宿泊施設の利用にもつながりました。

また、地元中学生による職場体験や園児を対象としたDMV作品展や体験試乗会等により、地域愛やマイルール意識の醸成を図ったほか、2周年記念グッズ・新デザイン鉄印の発売、ふるさと納税への参画や行政・議会・企業等からの有料視察受入により、運輸外収入の確保に取り組みました。

【安全面】

DMVの営業運行は世界初の試みとなることから、現在、営業運行を続けながら走行データを蓄積し、長期耐久性を検証しております。本年度も安全・安定輸送完遂のため車両の運転業務や駅業務を厳正に行うとともに、設備の点検・検査を確実にいき、安全最優先で業務に取り組みました。

【費用面】

平成24年度から取り組んでいる「経営改善計画（令和4年度更新）」に基づき、人件費の削減をはじめとする経費節減策を継続的に実施するとともに、維持管理費の国費活用を図りました。

【損益】

売上原価を差し引いた営業収益が26,163千円（対前年比93.6%）、営業費用が126,775千円（対前年比76.4%）、営業外収益が4,879千円（対前年比9.3%）、営業外費用が1,210千円（対前年比93.7%）となり、当期経常損失は96,943千円（対前年比111.9%）となりました（一時的な費用である長期耐久性に係る費用を控除した経常損失は82,636千円）。これに経営安定基金からの助成金をはじめとする特別利益及び特別損失等を加減し、当期純損失は8,863千円となりました。

今後も、車両自体が観光資源となるDMVの営業運行が「新しい人の流れ」を生み出し、当社の経営改善、並びに阿佐東地域への経済波及効果を最大限発揮出来るように進めて参ります。

また、地元住民と観光客の大切な移動手段として活用されるよう、当社の使命である安全の確保を最優先として、乗車人員と収入の確保、経費の節減に取り組んで参ります。